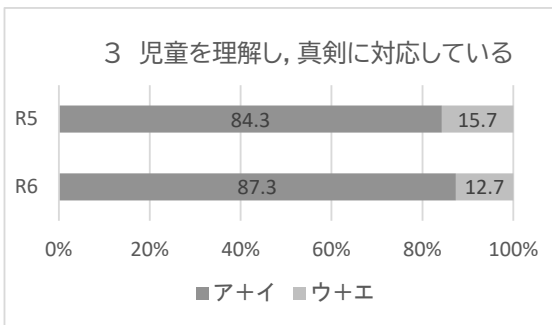
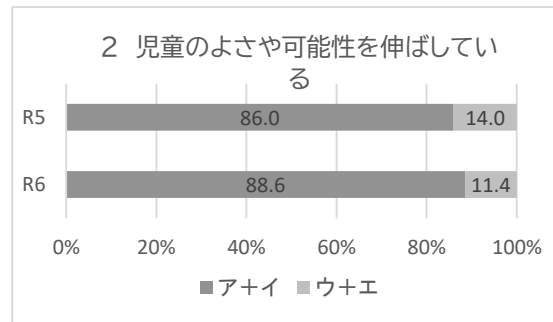
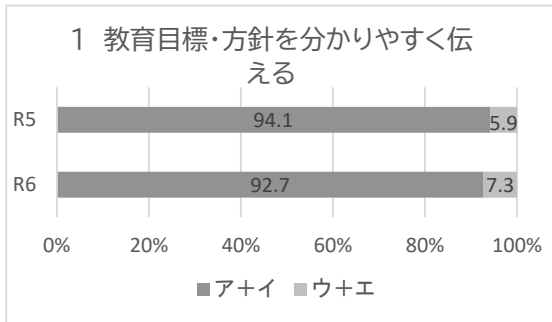


# 令和5年度・令和6年度 保護者アンケート結果と考察

## I 教育活動について

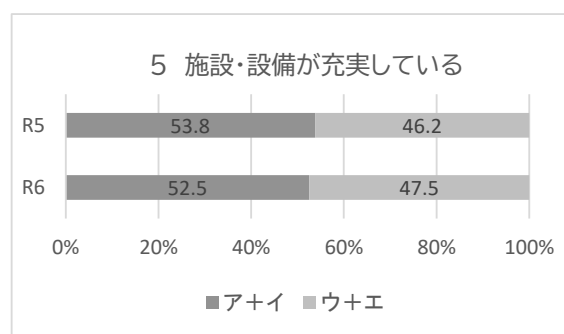
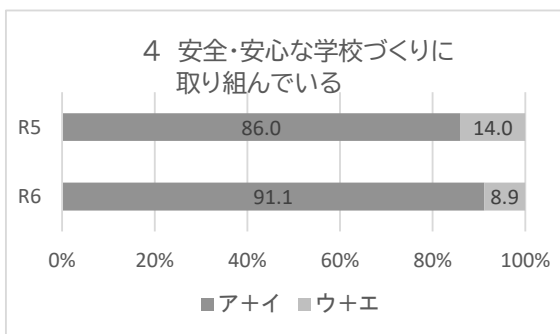


「教育活動」について、どの項目もア・イ(できている)が8割を超えていることから、本校の学校教育活動への理解が進んでいるといえる。

特に、1の項目については、昨年度との差異は小さく、9割を超える保護者がア・イ(できている)と回答している。これは、年度初めに「マスタープラン」を学校の経営プランとして学校Webサイトに掲載して周知を図っていることや、各学年から「学年だより」が毎月発行されること、れんらくアプリを活用して必要なことを適宜周知していることの効果の現れだと考えられる。

2及び3の項目は、昨年度と比べてア・イ(できている)が約3%増えており、校長のリーダーシップのもと、「挨拶・笑顔・感謝」あふれる学校をめざし、教職員が一丸となって子どもたちに対する教育活動に取り組んでいることが浸透していると考えられる。また、学校Webサイト上で、学校での様子をほぼ毎日発信していることも功を奏しているといえる。今後はさらに保護者との連携に努め、教育活動に対する理解を得られるように心がけたい。

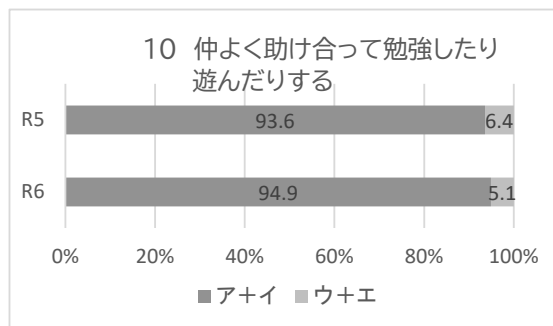
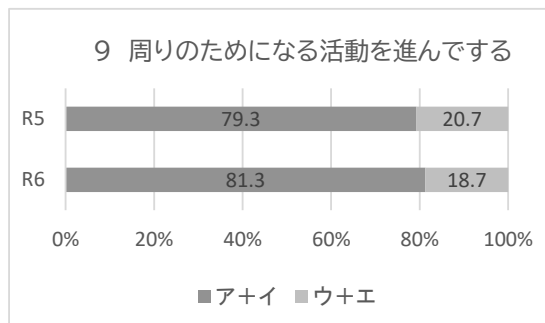
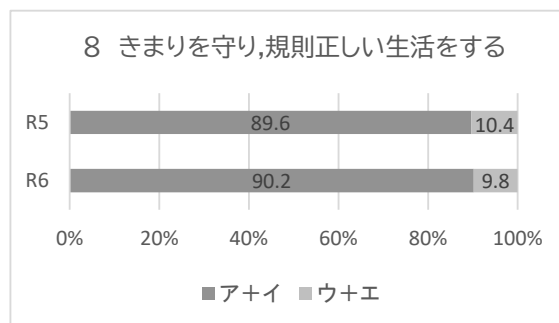
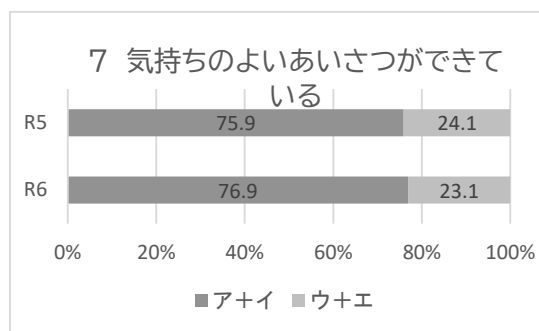
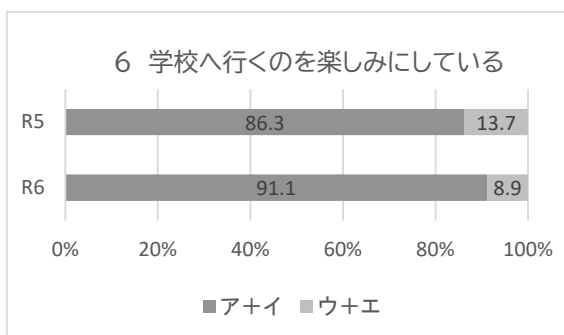
## II 教育環境について



4の「安全・安心な学校づくり」に対する保護者の意識・関心は常に高い。ア・イが昨年度から約5%増加して90%を超えていることから、登下校を含む学校での安全や、学校生活を送る上での子どもについての安心に関し、学校に対する信頼感が高まってきていると考えられる。残る1割弱の保護者はウ・エの評価であることを踏まえ、より一層の安全・安心な学校づくりに向けた取組を模索し、保護者との連携を深めながら学校教育を進めていく必要がある。

5の「施設・設備の充実」については、昨年度と比べ差異は少ないが、両年度ともにア・イの回答が半数程度であり、評価が低い。学校の施設・設備の老朽化が否めないことの現れだと思われる。安全面に問題がある部分については、事務職員の協力も得ながら、即時修繕等の対応をしているところである。また、今年度は、プールサイド周辺のマットや学年の下駄箱前の踏み板等を新調するなどして、子どもたちが安全に生活できる環境の充実・改善を図っている。今後も、関係諸機関とも連携しながら、子どもたちが安全に快適に生活できる環境づくりを進めていきたい。

### Ⅲ 児童活動について

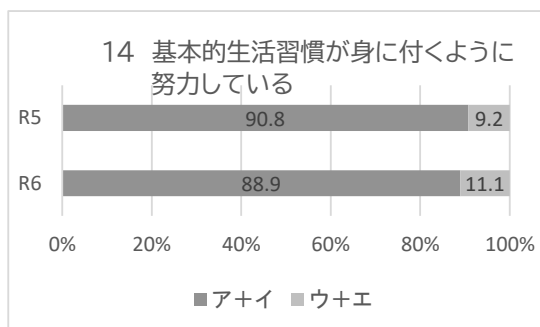
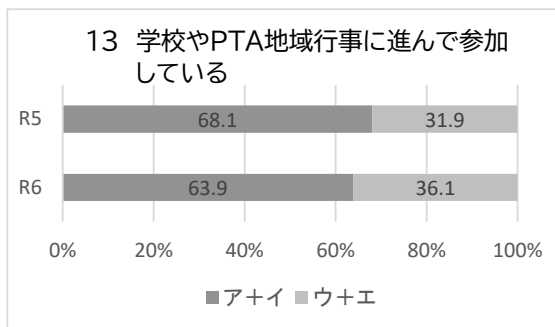
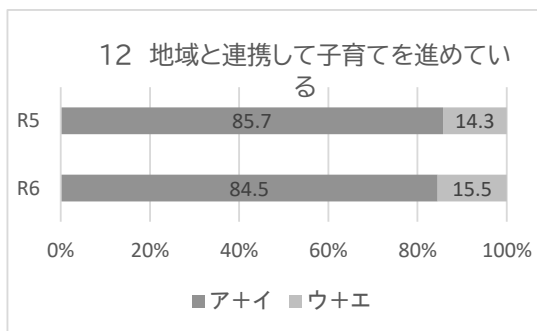
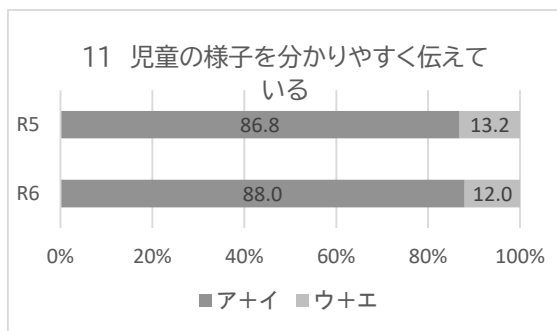


全ての項目について、ア・イの回答が昨年度の割合を上回っている。子どもたちの学校生活の様子が良い方へ向上してきていると捉えられているのだと考えられる。なかでも、6の「学校へ行くのを楽しみにしている」については、約5%増加していることから、保護者にも子どもたちの学校生活の充実ぶりが浸透してきているといえる。8や10の項目についてもア・イの回答が9割を超え、子どもたちが落ち着いて学校生活を送っていることが推察できる。

7の「気持ちのよいあいさつ」については、高評価の割合が昨年度より増加したものの、8割弱であり他の項目に比べて低い水準である。あいさつについては、本校の教育目標にも掲げている内容であり、運営委員会中心にあいさつ運動を実施したり、朝会等の場面で全校児童にその必要性を講じたりしているところである。今後も継続的に子どもたちにあいさつの重要性を説き啓発に努めるとともに、子どもたちの良き手本となるよう教師自身が率先してあいさつを行い啓発していく。

9の「周りのためになる活動を進んでする」についても、昨年度よりア・イの回答が2%増加し高評価ではあるが、8割程度にとどまっている。低学年から人のために働くことのすばらしさにふれ、6年生になって委員会活動やボランティア活動などで活躍できる子どもたちを育てていくとともに、活動の様子をより一層発信していきたい。

#### IV 家庭・地域との連携



11の項目「児童の様子を分かりやすく伝えている」については、昨年度よりポイントが上がった。約9割の保護者がア・イを選んでいる。保護者や各家庭に対して、学校の取組や児童の学校生活の様子を様々な手段で伝えてきたが、まだまだ十分とはいえない。今後、さらにより開かれた学校となるよう、連絡帳や学年通信、学校Webサイト等の効果的な活用を心がけ、子どもたちの様子がより家庭に伝わるよう努めたい。

12、13、14の項目については、昨年度よりも若干ア・イの回答割合が下がっている。コロナ禍を経て、以前の学校生活が戻ってきているが、何をどのような形で実施していくかを、学校行事や教育課程においても試行し精選している段階にある。その分、保護者の方々においても、変化していく学校教育による子どもの変化を見極めにくいといえるかもしれない。参観日も運動会も内容や運営方法を試行錯誤しながら実施している中で、たくさんの保護者の方々が参加されており、保護者の関心が高いことが分かる。また、朝の交通指導には、どの地方も朝早くから当番を決めて、子どもたちの安全のために通学路のポイントに立ち、見守りを続けてくださっている。こうした場面も活用するとともに、学校Webサイトやれんらくアプリをより有効に活用し、連携・協力を役立てていきたい。